

複式教育における合同学習とカリキュラム・マネジメント

—三重県の事例から—

萩野真紀*

Collaborative Learning and Curriculum Management in Combined Grade Classes ;
A Case Study of Mie Prefecture

Maki Hagino*

要 旨

環境や教育条件によらず、どの地域の学校にあっても全ての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すことが、今求められている。へき地・複式・小規模校にあっては、へき地複式の三特性「へき地性・・・へき地こそ体験活動の宝庫である」「小規模性・・・小規模こそ個性を生かす大地である」「複式形態・・・複式こそ自ら問題解決をする力を育むゆりかごである」を十分に生かし、未来に生きる子どもたち一人ひとりのために「令和の日本型学校教育」が目指す教育活動がすでに展開されているといえる。本研究では、三重県のへき地・複式・少人数教育を事例として現状を把握し現状から学び、教員養成教育に生かすことを目的に次の2つの視点から考察する。一つ目に、三重県内の複式学級の授業形態のうち、複数の教員による異学年交流授業、すなわち合同学習についてアンケートに基づき検討を行った。二つ目に、中学校1年生から3年生までの合同授業の年間を通じた音楽科の授業の3年間を見据えたカリキュラムの編成のありかたについて、令和3年度よりの実践を通して実情や可能性等について検証した。

キーワード：複式教育、合同学習、音楽、カリキュラム編成

1. はじめに

日本において平成の時代ごろより人口減少社会を迎え、過疎化や少子化が進み、学校の小規模化が進んでいる(図1)。

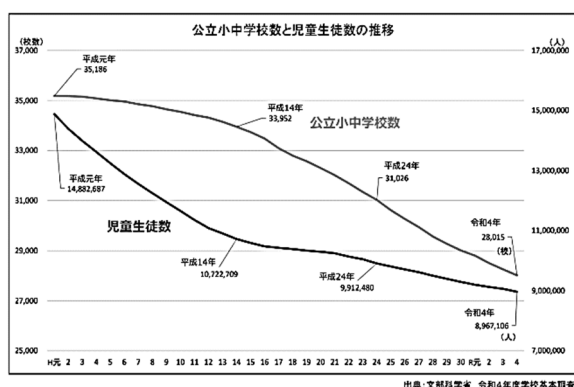


図1 公立小中学校数と児童生徒数の推移

文部科学省(2023)によると、公立小学校・中学校を

取り巻く状況として、「平成の大合併」を超えるペースで、小学校・中学校ともに減少している。学校教育法施行規則により、学校の規模において、小学校・中学校の学級数は、基本的に12学級以上15学級以下を標準としているが、小学校の4割、中学校の5割が標準規模を下回っている状況にある。地理的・距離的な制約やその他の要因により、統廃合で学校規模を適正化することは難しく、短学級や複式学級を有する小中学校はある程度の割合で存続、もしくは緩やかに増加することも予想されている。文部科学省における学校統廃合の基本的な考え方において小規模校の課題として、クラス替えができない、クラス内で男女の偏りが生じる、人間関係が固定化する、多様な意見に触れることが難しくなる、スポーツ実技や合唱・合奏などが困難になること等が挙げられている。統廃合する場合も、小規模校として存続する場合も、より良い教育環境の実現を支援するために、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」(文部科学省,2015)により、

* 三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 東紀州サテライト東紀州教育学舎

数々の方策が提示されている。複式学級の授業形態のうち、複数の教員による異学年交流授業、すなわち合同学習についてと、中学校1年生から3年生までの合同授業の年間を通じた音楽科の授業の3年間を見据えたカリキュラムの編成についてとりあげ、三重県の事例よりその実情を検証し、可能性を探る。

2. 複式教育における合同学習の概要

2.1. 問題と目的

複式学級における学習指導の授業形態は、様々である。1人の教員が学年別指導をする場合でも、異なる教科の指導をする形態、あるいは同じ教科の指導をする形態、異学年一斉授業（合同）・同単元指導（AB年度方式）がある。また、複数の教員による、学年別指導・異学年一斉指導（合同）・学年別教科指導の形態もある。

特に、実践報告の少ない異学年一斉授業（合同学習）について、三重県の現状を把握し検討する。

2.2. 方法

2023年8～9月に、三重県へき地・複式教育研究会に所属するへき地指定校及び複式学級校64校を対象に選択式及び記述式でGoogleフォームへ回答してもらう形で行った。

2.3. 結果

2.3.1. 複式学級の授業形態と合同学習

複式学級の授業形態は、どのようになっているかを1人の教員による学年別指導（異なる教科の指導）、1人の教員による学年別指導（同じ教科の指導）、1人の教員による異学年一斉指導、同単元指導（いわゆるAB年度方式など）、複数の教員による学年別指導、複数の教員による異学年一斉指導、その他から選択してもらった結果は、図2の通りである。

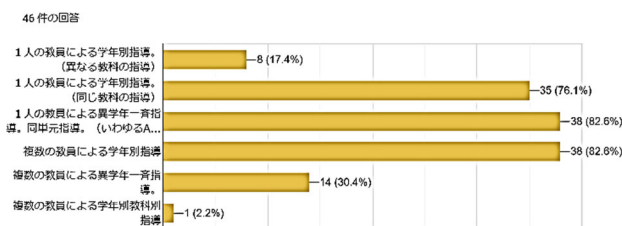


図2 複式学級の授業形態

1人の教員による異学年一斉指導（いわゆるAB年度方式）が全体の82.6%、複数の教員による異学年一斉指導が全体の30.4%を占めることが判明した。また、学年については、1・2・3年と4・5・6年のように上級学年と下級学年に分けて、1・2年と3・4年や5・6年のように低・中・高学年ごと、学校の実情に合わせて2・3年や3・4・6年、3・4・5・6年、1・2・3・4年の組合せで、または全校で、異学年一斉指導（合同学習）が行われていた。教科については、件数の多かった順に

体育44件、音楽43件、図工37件、道徳24件と続く（図3）。1人または複数の教員が、技能教科で合同学習を行っている学校が多いことが明らかになった。

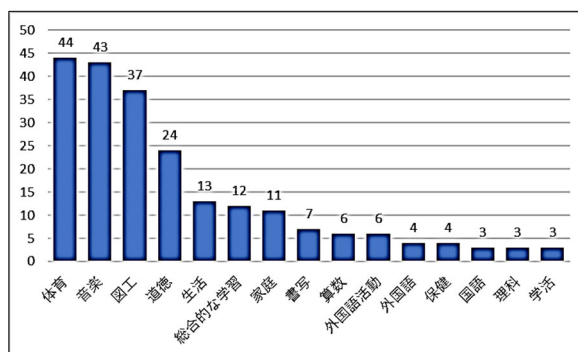


図3 合同学習が行われている教科（件数）

2.3.2. 教科指導の工夫

合同学習の教科指導の工夫として挙げられたものを、項目別にまとめた。

評価や到達目標

- ・学年ごとの評価基準を設定している。一人ひとりの学習、取組状況を把握し評価している。
- ・到達目標を学年毎に決めている。
- ・評価基準は同じであるが、一人ひとりの取り組み状況を丁寧に捉え評価している（特に下の学年）。
- ・単元により、学年ごとに評価基準を設定する時と評価基準を同じにする時がある。（各人の能力等を考慮して）
- ・授業の担当者が多岐にわたるので、評価については用紙に書いてもらうようにしている。
- ・一人ひとりの取組の状況を記録している。

カリキュラム・時間割

- ・AB年度方式でAB年度の年間計画に沿って進めている。（どの内容をどちらの年度で実施するか、明確にしている。）
- ・各学年担任の授業準備のための空き時間の確保ができるよう、時間割の工夫をしている。

指導方法

- ・仲間づくりを大切にしながら指導を行っている。
- ・学年の発達段階に応じた指導を行っている。
- ・同じ題材を使ってする体育や音楽では、少人数ではできないゲーム性のある競技や、合唱・合奏などの表現活動を異学年で取り組むことで、少人数ではできない学びを工夫して行っている。試技や表現の工夫を言葉で出し合い、交流する中で、学び合う楽しさが実感できるようにしている。
- ・上級生と下級生のペア活動を多く取り入れ、子ども同士の活動で上達できるようにしている。（体育）
- ・一人ひとりの考えや思いをきくようにしている。
- ・発達段階に応じて、スパイラルな学習、繰り返し学習

を取り入れている。

- ・ワークブックの活用をしている。
- ・1・2・3年の音楽では歌は一緒に、器楽は別に取り組んでいる。
- ・グループ活動を取り入れ、異学年での教え合う機会も増やしている。

教師間連携・地域連携

- ・専科教員との連絡を密にしている。
- ・複数の教員で学年を分けて指導する場合、十分な情報共有を図るように留意している。
- ・学習内容の定着を図るために、算数、理科、社会科については、学年ごとに教員が付き指導をすることにしている。
- ・単元や内容によって、加配教員や保護者・地域ボランティアに支援をしてもらっている。家庭科実習、プールの指導や監視、校外学習など

教材

- ・異学年の教科書の購入をしている。
- ・三重大学東紀州サテライト作成の複式用の外国語科のカリキュラムを使っている。

以上のように、異学年一斉の合同授業をする教科では、各学校の実情に合わせていろいろな側面から工夫し取り組まれていることが明らかになった。「合同で授業を行うことによって、子どもたちは上級生のすごさを間近にみることができ、自分も大きくなったからこそまでできるようになりたいという思いを抱くことができる。」という意見があった。教師相互の協働的な学び合いが生まれ、子どもの個別最適な学びと協働的な学びを実現し学力を保障し可能性をひきだそうとする教育活動が構築されているといえる。

2.3.3. 教科指導上の課題や悩み

さらに、教科指導上の課題や悩みを問うた結果、64校中ほぼ半数の31校が、「教材の選択や組み合わせの工夫と、系統的な指導を考慮した計画の作成が必要となり、学年毎の目標が異なるため教材や補助教材の選択や組み合わせが難しく、深く丁寧な教材研究や授業準備に時間を要し負担感が大きい。」と回答した。中でも、「体育や音楽、家庭などの技能教科は、体力や技術に大きな差があり難易度も異なるため指導方法や教材選びに工夫がいる。」という回答が目立った。「道徳は特に年度当初は1年生には2年生の教材は難しい。」や「2・3年生で道徳を一斉に行う場合、学習指導要領の縛りがあり、同じ教科書で学習できない。」と道徳に関する課題や、「外国語科では5年生が6年生の内容にふれることもある。」「算数の長さを測る作業場所が限定される。」という意見もあった。「次年度を見据えた系統的な指導計画や引き継ぎの重要性」や「転出入の際の学習保障」、「学年・個人・特性による個別の指導や評

価等の煩雑さ」、の問題も出されている。さらに、「複式学級の指導に専科教員のコマがたくさん必要で、学校全体として、一人当たりの持ち時間数が増える。時間割作成が難しい。」「加配教員の配置、非常勤教員の必要性」、「体験活動が盛んなため、活動の打ち合わせや計画の立案などがたくさんあり、教材研究を要する時間の確保が難しい。」などが出されている。「少人数のため考えの幅が広がらず、対話的な深い学びにはならないことが多い。」「人数が少ないため体育や音楽ではできないことも多い。」や、「基本の定着が把握できていないときがある。」「指導内容に沿って実施できていない状況もある。」などの悩みもあった。「系統的な指導計画はあるが、児童の実態に応じて柔軟に修正することが必要である。そのため、経験のある人材が求められるが、人的確保が難しい。」との回答があるように、合同学習を行う上で、系統的な指導計画と、人材確保は、重要な課題であることが明らかになった。

3. 合同学習のカリキュラム・マネジメント

3.1. 問題と目的

現場から音楽の合同学習の系統的な指導計画作成が困難であると多く言われている。複式学級における音楽の先行研究は少ない。また教科書会社2社からは、小学校の複式年間指導計画が低・中・高学年の学級編成において同教材同内容同程度で作成されているが、中学校のものは示されていない。著者が3年前よりサポートするA中学校の音楽のカリキュラムについて実情と課題を検証し、可能性を探ることを目的とする。

表1 A中学校 音楽年間スケジュール(ABC年度三本案)

	2021年度	2022年度	2023年度
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、入学式 ・校歌 ・合唱 □「大空へのぼろう」「夏の思い出」 ・楽器演奏…ギター講座「夏色？」 ・アルトリコーダー □「今年度は中止」 ・鑑賞 □「フルタナ」 ・CMソングをつくろう ・期末テスト&歌テスト ・市音楽曲決め(2曲) ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、入学式 ・校歌 ・合唱 □「花」 ・楽器演奏…ギター講座 ・アルトリコーダー □「レヴェル・ブレイン」 □「誰も知らない私の悩み」 ・鑑賞 □「交響曲第5番ハ短調」 ・平鏡子を活用する音楽づくり ・期末テスト&歌テスト ・市音楽曲決め(2曲) ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式、入学式 ・校歌 ・合唱 □「茶辺の歌」 ・楽器演奏…ギター講座 ・アルトリコーダー □「オーラ・リー」「威風堂々」 ・鑑賞 □「魔王」 ・庵声や庵響語を活用する音楽づくり ・期末テスト&歌テスト ・市音楽曲決め(2曲) ・終業式
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・市音楽曲練習 □「奥のこと」 □「糸」 ・講師の先生3回来校 ・鑑賞 □「市音楽」 ・期末テスト&歌テスト ・文化の集い ・卒業式の曲決め(1曲) ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・市音楽曲練習 □「花は咲く」 □「明日へ」 ・講師の先生3回来校 ・鑑賞 □「市音楽」 ・期末テスト&歌テスト ・文化の集い ・卒業式の曲決め(1曲) ・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・市音楽曲練習 □「Replay」 □「君と見た海」 ・講師の先生3回来校 ・鑑賞 □「市音楽」 ・期末テスト&歌テスト ・文化の集い ・卒業式の曲決め(1曲) ・終業式
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・式歌練習 □「変わらないもの」 ・和楽器…三味線講座(講師3名) □「常盤の月」 □「さくらさくら」 ・鑑賞 □「達経三味線」吉田兄弟 ・期末テスト&歌テスト ・卒業式、修了式、離任式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・式歌練習 □「変わらないもの」 ・和楽器…三味線講座(講師3名) □「さくらさくら」 □「ふるさと」 □「ひなまつり」 ・鑑賞 □「オペラロアイデア」 ・期末テスト&歌テスト ・卒業式、修了式、離任式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・式歌練習 □「変わらないもの」 ・和楽器…三味線講座(講師3名) □「さくらさくら」 □「ふるさと」 □「きよしのスンドコ節」 ・鑑賞 □「雅楽と能」 ・期末テスト&歌テスト ・卒業式、修了式、離任式

3.2. 考察

すであつた A 中学校の「A・B・C 年度三本案」を、2021 年度新たに著者の助言により作成し、後に実際に市の音楽祭や卒業式で歌った合唱曲のタイトルを加えたものが表 1 である。また、器楽の教科書を除く音楽の教科書の 3 年間の年間指導計画の中で A 中学校が選択及び既習した主教材を●でマークした(表 2)。この指導計画に沿って指導を進め、行事等により、臨機応変に教材を入れ変えた。また、授業で触れることができなかつた鑑賞教材をテスト問題に取り入れテスト時間内で鑑賞したりすることなどを著者が提案した。「合唱練習にほぼ時間をとられる 2、3 学期においては、大変有意義である。」という意見が報告され、画期的で可能性のある取り組みと考える。主教材の展開状況は、表現領域の歌唱は「校歌」・「音楽祭の 2 曲」・式歌「変わらないもの」を入れて約 73%、器楽は約 63%、創作は 50%、鑑賞領域は約 55%であつた。鑑賞領域は、テスト問題に組み入れたものを加えると展開率はアップし、共通事項もバランス良く配置され、著者が長年にわたり取り組んで来た中・大規模の中学校の内容と遜色がなく、地域の人材による合唱・三味線指導、大学教員による遠隔指導、行事等が設定され、多面的、総合的に音楽教育活動が繰り広げられていると言える。

表 2 令和 3 年度版中学音楽年間指導計画及び教材選択

	教材 (○…主教材)	ユニットで取り扱う主な(共通事項)	取り扱う指導事項
1 年	●[春]第 1 楽章	音色、旋律、強弱、形式、構成	鑑賞
	●魔王(シューベルト)	旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成	
	○穴長の調	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、構成	
	○日本とアジアの声によるさまざまな表現 スズキマリ・小島	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	
	●青春へのほろろ	音色、旋律、強弱、構成	表現・歌唱
	●夏の思い出	リズム、旋律、強弱、形式、構成	
	○明日を信じて	旋律、テクスチュア、強弱、構成	
	○ソーラン節	音色、リズム、旋律、テクスチュア、構成	
	●オーラリー	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア	表現・器楽
	○ミーさんの差	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア	
	○ロング・ロング・アゴー	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア	
	●さくらさくら	音色、リズム、速度、旋律	
○ひらいたひらいた	音色、速度、旋律	表現・創作	
●日本語の抑揚を活用する旋律づくり	音色、リズム、旋律、構成		
○無声語や擬態語を活用する音楽づくり	音色、リズム、テクスチュア、構成		
○オレロ	音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱、構成		
2 年	●交響曲第 5 番ハ短調	音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱、構成	鑑賞
	●種菜「絶天楽」	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成	
	○郷土の音楽や芸能「舞踊(舞子舞)」	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	
	○生命が弱はなくとき	音色、リズム、旋律、強弱、構成	
	●浜辺の歌	リズム、旋律、強弱、形式、構成	表現・歌唱
	○You Can Fly!	音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱	
	○そよ風の中で	速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	
	●誰も知らない私の心 ●シゲル・ブレイン	音色、速度、旋律	
	○荒城の月	音色、リズム、速度、旋律、形式	表現・器楽
	○八分音符と四分音符を組み合わせるリズム創作	リズム、旋律、テクスチュア、構成	
	●半調子を活用する音楽づくり	音色、リズム、旋律、構成	
	○フルタバ(モルダウ)	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	
3 年	●オペラ アイダから	音色、速度、旋律、テクスチュア、強弱	鑑賞
	○歌舞伎「勧進帳」	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱	
	○祭立ちの日に	リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	
	●花	音色、リズム、旋律、強弱、形式	
	○時を越えて	音色、速度、旋律、テクスチュア、強弱、構成	表現・歌唱
	●威風堂々 まらから風	音色、旋律、テクスチュア、形式、構成	
	○Happy Birthday to You	音色、速度、旋律	
	●音楽のリズムや重なり方を活用する旋律づくり	リズム、旋律、テクスチュア、構成	
	○短い旋律の回復を活用した音楽づくり	音色、リズム、旋律、構成	表現・創作

現在、2 人の免許外教科担任が TT で 1 年生 2 名、2 年生 3 名、3 年生 2 名の全校 7 名(男子 2 名、女子 5 名)の音楽を担当している。互いの得意分野を生かして指揮と合唱指導やパート練習の指導、音源や ICT 機器の準備等を分担したり、デジタル教科書を活用したりしてうまくフォローし合い、時には教科横断的な試みを加えて取り組み、学年を超えた学びから 7 人とは思えない豊かなハーモニーを生み出している。1 人が直接指導、1 人が間接指導の支援というしぼりではなく、発声練習と合唱練習で分担したり、対等の関係でパートを指導したり、主従は年度初めに決めて進んでいるものの、教師相互の協働的關係が形成され、PDCA サイクルがうまく循環し授業が構築されている。複式学級における学習指導においてユニバーサルデザイン教育の必要性が指摘されている(深見 2018)が、すでにこの学校では小中と音楽室も共通で、教室環境のユニバーサルデザイン化がなされ、授業についてもめあてから振り返りまでを見通しをもってリーダーを中心に生徒自らが進められるよう掲示物が工夫され、ユニバーサル化が進んでいる。A 中学校では教科横断的な取り組みや、音楽の領域を横断してカリキュラムを組んだ例がある。プログラミング言語である Scratch を使って、校歌の旋律と伴奏をプログラミングし、同時に図形や絵を描くという活動、そして「オーラ・リー」や「アニー・ローリー」で歌唱と器楽(リコーダー)を関連させ創作へ発展的につなげた学習などである。河添・多賀(2009)は、「領域横断型カリキュラム開発の重要性」を報告しているが、教科横断的な視点と共に、合同学習で限られた時間内で同単元同教材同内容同程度または同単元同教材同内容異程度で授業デザインをする領域横断型カリキュラム開発は新たな可能性のある挑戦と考える。この 3 年間では当初の年間スケジュールの中で計画していた教材を取り上げることができなかつたり、新たな教材を投げ入れたり、例えば「津軽三味線」の奏者を変更し、吉田兄弟から三重県の駒田早代の鑑賞にしたりなどした。カリキュラムはあつても状況や生徒の実態に応じ見極めて、ある程度柔軟性を持たせ修正していくことは、必要不可欠である

4. おわりに

へき地・複式・小規模校の教育は、教師と子どもや子どもどうしの信頼關係が強く、個別最適な教育活動が展開できる教育の原点と言われている。三重県の東紀州地域の少人数教育は、20 年も前からすでに ICT 活用も行い、一人一人の学びを保障し、全ての子どもの可能性をひきだす個別最適な学び、協働的な学びを実現してきたこと、また、学校教育にとどまらず、家庭や地域と連携した社会教育にも力を入れてきて、今も

取り組んでいることなど(二村,2023,10月)を伺っている。培われてきた複式教育・少人数教育は、未来の教育のパイオニア的存在であり、学ぶべきものが大きいと言える。教員を目指す学生が、入学段階から、少人数によるきめ細かな指導体制・学習指導の工夫・地域連携等を学び体験することで、中・大規模校での教育活動にも応用できる新しい教育観や指導方法を習得できると考える。地域の大学が、地域と連携して幅広い教育に対応して携われる人材を養成することは、非常に重要と考える。それらを大学が、教員養成課程で、地域と連携してどのように進めるのかを今後研究し明らかにしていきたい。

また、複式教育の合同学習における系統的な指導計画は、ICTや地域文化・人材等を活用し、教科横断的な視点も取り入れた領域横断型カリキュラム開発に可能性を見いだすことができると考えた。例えば音楽の日本の伝統音楽を学ぶ際に、三味線や箏の演奏の鑑賞と体験演奏(器楽)の領域横断や、教科横断を視野に入れ茶道・華道・書道・陶芸・国際理解等、総合学習を組み込むなどである。カリキュラム開発は、各教科や授業形態によっても異なり、深い教材研究に基づくカリキュラム・マネジメント力が必要である。見極めや柔軟性を持たせるなどの調整力は経験が豊富になるほどつくであろう。こうした経験豊富な教師とタグを組み、カリキュラム開発や年間指導計画のあり方や作成、指導と評価についての課題についても今後さらに明らかにし、教員養成教育に活かす研究を継続していきたい。

謝辞

本研究に協力くださいました三重県へき地・複式教育研究会の先生方、三重県鳥羽市立神島中学校の教科担任の先生方に深謝いたします。また、本研究のアンケート調査について協力いただいた、松本栄准教授にも感謝いたします。

引用・参考文献等

- 文部科学省(2023) 令和5年度「学校魅力化フォーラム」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tekisei/1411020_00011.htm【発表資料】(参照日 2023.11.20)
- 文部科学省(2023) 『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf (参照日 2023.11.27)
- 教育出版(2021) 指導計画・評価関連資料
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/ongaku/document/ducu1/m-index.htm> (参照日 2023.11.28)
- 栃木県(2023) 第12章 へき地・複式教育 - 栃木県
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m56/system/desaki/desaki/documents/20230306133102.pdf> (参照日 2023.11.24)

- 深見智一(2018)「単学級担任・複式学級担任の学級経営—へき地・小規模校での実践事例を中心に—」
 北海道教育研究所北海道教育大学(2001)「複式学級における学習指導の在り方」
- 河添達也・多賀秀紀(2009) 中学校音楽科における領域横断型カリキュラム開発
- 萩野真紀・須曾野仁志・大野恵理・榎本, 和能(2022) 中学校複式学級における音楽科遠隔授業と支援—ZoomによるICT機器接続の課題と方策—
 三重大学教育学部研究紀要 教育実践 73 591-594.
- 芳賀均・大野紗依(2022) 複式学級における学年別指導による音楽の授業の検討